

第5回苫小牧市行政改革推進審議会 議事録

日時	令和元年8月21日(水) 15:00 ~ 16:15
場所	市役所9階会議室
出席委員	石森委員、川島委員、小林委員、佐藤委員、菅原委員、滝本委員、 中村委員、藤田委員、山上委員、渡辺委員 (敬称略、五十音順)
事務局	行政監理室
会議次第	<ol style="list-style-type: none"><li>1 開会</li><li>2 会長挨拶</li><li>3 議題 新たな行政改革プランの在り方に関する意見について</li><li>4 その他</li><li>5 閉会</li></ol>

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>定刻となりましたので、ただ今から、第5回苫小牧市行政改革推進審議会を開催いたします。</p> <p>それでは、開催に先立ちまして、石森会長より一言御挨拶をお願いします。</p>
石森会長	<p>皆様、本日は、お忙しい中、審議会に出席いただき、感謝申し上げます。</p> <p>後ほど事務局から説明がありますが、前回の審議会後に、委員の皆様から提出いただいた御意見をまとめた資料が、お手元に配布されています。</p> <p>本日は、答申書としてまとめる前の段階として、各委員からの御意見をもとに、市長に提出する答申の内容や方向性について、議論したいと思います。</p> <p>しっかりと将来を見据えた行政改革プランをつくるためにも、皆様の様々な御意見が重要となりますので、本日も、忌憚のない御意見をお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、これからの議事進行につきましては、石森会長にお願いしたいと思います。</p> <p>石森会長よろしく願いいたします。</p>
石森会長	<p>それでは、議題の『新たな行政改革プランの在り方に関する意見について』に入りたいと思います。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>まずはじめに、委員の皆様におかれましては、お忙しい中、意見シートを御提出いただき、また、貴重な御意見を多数いただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>今回、委員の皆様からは、非常にたくさんの御意見をいただきましたが、その中で、複数の方からいただいた類似の御意見をカテゴリーに分ける形で、事務局において、本日お配りしている資料5-1のようにまとめさせていただきました。</p> <p>本日は、こちらの資料をもとに、いただいた御意見の内容について、まず、事務局から説明させていただきたいと思います。</p> <p>それでは、資料5-1の1ページをお願いいたします。</p> <p>はじめに、1番「新たな行政改革プランの方向性について」として、大きく3つの事項に関する御意見がございました。</p>

(1) NEXT STAGEの更なる進化ですが、少子高齢化・人口減少といった社会情勢に鑑み、現行のNEXT STAGEで掲げている「財政基盤の確立・強化」と「市民サービスの向上」という方向性は継続すべきとの御意見が多くございました。また、「全体最適の意識」をはじめとする共通マインドや、基本スタンス、7つのテーマについても継続すべきではないかという御意見もございました。

次に、(2)「新たな時代」へのチャレンジです。ICT技術の発展や国際化の進展といった、これからの行政運営において避けては通れない環境変化を念頭に、新たな行革理念を構築する必要があるという御意見がございました。また、インフラを含む公共施設の老朽化などに伴い、歳出の増加が見込まれる中、これまでの削減や効率化だけでは、遠からず健全な財政運営は困難になる。歳出の増加抑制だけでなく、新たな財源創出に向けた取組を強化すべきという御意見も多数いただいております。

「新たな時代」に向け、苫小牧市をどのような都市とするか、明確なビジョンを持ち、行政改革の取組も含め、市政運営全体の在り方を考えていくべきではないかとの御指摘もございました。

そして、(3)情報発信は、前回の審議会でも議論になった部分ですが、行政改革の取組や成果もさることながら、市政運営全般において常に意識すべきポイントだと考えております。今回も多く委員から御意見をいただきました。

続きまして、2ページをお願いいたします。

2番「新たな行政改革プランで柱とすべき事項について」として、主に7つの事項について、多くの御意見がございました。

まず、(1)健全な財政運営です。言うまでもなく重要なテーマではありますが、新たな財源確保策として、企業誘致や事業創出、起業や技術開発への投資、民間資本の活用、クラウドファンディングの導入などのアイデアを御意見としていただいております。

(2)市民サービスの向上ですが、これからの時代に合わせた市民サービスの提供に取り組むほか、電子化や自動化を進め、利便性向上とともに行政事務の効率化を両立することにより、効果的なサービスの提供を目指すべきとの御意見がございました。

(3)協働の推進です。市民や企業と行政との協働を推進し、様々な面で市民・企業が持つ力を活用するとともに、行政に参画する意識の醸成により、魅力的なまちづくりにつなげるべきという御意見がございました。

(4) 公共施設のマネジメントですが、インフラを含む公共施設の老朽化は大きな課題であり、財源確保の一方で、施設の統廃合やサービス・機能の再編などもあわせて取り組むべきという御意見がございました。

(5) 民間活力の活用です。これまでも苫小牧市では積極的に取り組んできた事項であり、今後も継続すべきとの御意見が多くございました。3ページにまいりまして、従来の民間委託・民間移譲に加え、民間資本の活用の手法も検討し、ブラッシュアップすべきとの御意見もございました。

(6) ICT技術の活用です。AIをはじめとする情報通信技術の進展や、スマートフォンの普及などに伴い、行政運営においても、こうした技術の活用による市民の利便性向上、行政事務の効率化は必須であるという御意見がございました。特に、ペーパーレス化やキャッシュレス化は時代の流れであり、検討を進めるべきという御意見です。

最後に、(7) 職員の人材育成と「働き方改革」、簡素で効率的な組織づくりです。行政改革の推進において、その実施主体となる市職員の意識改革と人材育成が重要であり、人手不足と言われる中、限られた人的資源の活躍を促進し、一人ひとりの生産性を向上させることで、いわゆる「働き方改革」も意識すべきとの御意見がございました。また、組織づくりについては、行政運営の維持・向上のため、不断の取組として、簡素で効率的な組織体制の構築を進めるべきとの御意見もございました。

4ページをお願いいたします。

3番「新たな行政改革プランにおいて取り組むべき事項について」ですが、より具体的な取組として、今回御提案のありました事項を18項目、列挙しております。また、それぞれの取組事項に対し、先の2番で御説明した柱のどの項目と関連するかということ、右側に丸で示しております。

こちらについては、いくつか抜粋して説明させていただきたいと思っております。

まず、(4) 北海道胆振東部地震での教訓と成果を踏まえ、危機管理体制・機能の効率的かつ効果的に構築し、災害に強いまちづくりを図るということですが、危機管理に関しても、多くの委員から御意見があった事項です。

続きまして、(8) は、市内の産業に必要な人材育成や地元就職の促進など、産業振興に向けた支援の充実、(9) は、女性や子育て世代の

若者、高齢者、外国人労働者など、誰もが働きやすい環境整備により、労働人口の増加を図るといった内容で、いずれも経済活性化に向けた取組に関する御意見となっております。

5ページをお願いいたします。

(10) と (11) は、公共施設に関する取組の御意見ですが、公共施設の再編や整備に関する手法の検討により、費用の縮減や財源創出を考えていかなければならないほか、遊休資産の売却や有効活用の取組も必要との御意見がございました。

(17) 職員の人材育成にあたっては、職員研修制度の充実のほか、行政と企業との人事交流、港湾行政との連携強化などにより、実践的な知識・経験の習得や、より広い視野の獲得などを図る必要があるとの御意見がございました。

次に、6ページをお願いいたします。

4番「行政改革に関するその他の意見について」として、これまで説明させていただいた事項以外に、行政改革に関する様々な御意見をまとめております。

まず、(1) 意識すべき時代認識ですが、今後の行政運営・行政改革を考えるにあたっては、個人の生活環境や生活様式、関心の対象が多様化していること、人口の流動性が高まっていること、価値評価の Spann が短期化していることを踏まえた上で、これからの時代や世代に合わせた取組を意識すべきとの御意見がございました。

(2) 内部事務の見直しですが、前回の審議会で配布いたしました平成26年の答申に記載のある、「内部の事務改善的な取組については、行政改革プランに掲げるまでもなく、日常の業務の範囲内で当然に行うべきものであり、新たな行政改革プランにおいても、このような取組は除外すべき」との考え方に賛同するとの御意見がございました。

(3) 行政改革プランの組立て・評価の方法です。現行のNEXT STAGEでは、7つのテーマに104の取組項目を掲げておりますが、項目数が多いのではないかと御意見が複数ございました。新たな行政改革プランについては、テーマの再構築や取組の選択と集中により、効果的なプランとなるよう留意すべきとの御意見です。

また、年度ごとの評価にあたり、取組ごとに、各年度・年度での到達指標のようなものを設定し、それに対する評価とする方が、進捗状況や評価が分かりやすいのではないかと御意見があったほか、現行のABC・3段階の評価についても、より細かく評価する方が望まし

	<p>いとの御意見もございました。</p> <p>加えて、5年間という計画期間のプランではありますが、迅速に結論を出すことができる取組については、スピード感をもって迅速に取り組むべきとの御意見がございました。</p> <p>次に、(4)若年層からの意見聴取ですが、苫小牧市の未来を担う若い人々からの意見を、行政運営において、もっと積極的に聴くべきとの御意見です。</p> <p>(5)行政改革推進審議会の在り方についてですが、この行革審において、行政改革の特定の重点項目を集中的に審議するような場を設けてもよいのではないかと御意見がございました。</p> <p>7ページをお願いいたします。</p> <p>(6)その他市政に関する提言ということで、行政改革だけに留まらない、市政の重要課題については、平成29年の見直しに関する答申の「その他特記事項」として示されているように、今回の答申書においても、「その他市政に関する提言」というような形で掲載することが望ましいという御意見がございました。</p> <p>最後に8ページをお願いいたします。</p> <p>先ほどの(6)の御意見を受け、5番「その他市政に関する提言」ということで、大きく3つの事項を掲載しております。</p> <p>まず、(1)経済活性化による歳入確保としまして、一部繰返しになりますが、今後の健全な財政運営に向けては、歳出の抑制だけでなく、新たな歳入の創出による財源確保策を講じる必要があり、苫小牧市の将来ビジョンに基づき、必要な財源確保を目指すべきとの御意見です。</p> <p>このことについて、具体的に検討すべき事項として、ICT関連企業の特設区設立など、積極的かつ独創的な企業誘致制度の検討や、地域内での起業・技術開発に向けた助成などの初期投資の重要性といった御提案がございました。</p> <p>(2)中心市街地の活性化ですが、苫小牧市の顔というべき駅前に活力を生み出し、まちに明るさと魅力を取り戻すため、中心市街地の活性化に取り組むべきという御意見がございました。</p> <p>最後に(3)IRの誘致です。IRの誘致について、市民の関心度も高いことから、市民にとっても全体像がつかめるよう、わかりやすい丁寧な情報発信に努めることで、「安心感」という市民サービスにつなげてほしいとの御意見がございました。</p> <p>事務局からの説明は以上です。</p>
石森会長	ただいま事務局から説明がございました。本日の議論では、事前に

	<p>各委員から意見シートを提出いただいておりますので、各委員から1人ずつ御意見を賜ればと思います。</p> <p>それでは、川島委員から順番にお願いできますでしょうか。</p>
川島委員	<p>今回、新たな行革プランの在り方に対する意見ということですが、第一印象として、非常にコンパクトにまとめていただいたと思います。</p> <p>この中で、特に私としては、前回の審議会も踏まえ、新しい財源の確保ということが非常に重要ではないかと思っています。そのためには、民間活力というものをどういった形で私たちは支援したらいいのかということ、具体的な行動ができるよう提示していけたらいいのではないかという気がしています。</p> <p>コスト削減という形で取組を進めていくと、どうしても将来展望が先細りになってしまい、予算がないため事業ができないということになってしまいがちだと思います。コスト削減は大事ですが、ネーミングライツなどの税外収入を上げていくような取組を地道に行っていくことも大事だと思います。</p> <p>それから、公共施設の老朽化という点が問題視されています。この点も、私たちが本当に必要な公共施設は一体何なのだとすることを、再確認すべきではないかと思っています。必要なところには必要な投資を行う。単に現状維持だけの支出をするのではなく、優先順位を決め、必要なものには大胆に積極的な投資を凶っていくことも大事ではないかと思っています。</p> <p>あとは、人材育成が重要になってくるのではないかと思います。今、色々なものづくり産業を初め、新しいことを展開するためには教育というところが大事だと思います。企業誘致するにしても、教育レベルが高くなければ企業も来てくれないということがありますので、そういったところを「てこ」に、新しい改革を推進していただきたいと思っています。</p> <p>最後に、この審議会で検討する中身も、広く浅くではなく、ある程度ターゲットを絞って、時間をかけて議論をする。場合によっては、担当する部署の方にも参加してもらい、説明をいただくことで、私たちも適切な判断・助言ができるような形を御検討いただければと考えております。</p> <p>私からは以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、小林委員お願いします。</p>
小林委員	<p>まず、短時間の間によくまとめていただいたと思います。資料の「1</p>

	<p>新たな行政改革プランの方向性について」それから、「2新たな行政改革プランで柱とすべき事項について」は、このまとめ方について基本的に違和感はありません。</p> <p>私の中では、どの項目も大事なのですが、やはりこの行革プランで柱とすべき事項は、自分の意見シートにも書きましたけど、まず「(1)健全な財政運営」と「(2)市民サービスの向上」を両立させるということが最も中心にあると思います。</p> <p>それ以外の(3)から(7)といった項目がそれを支える柱になるものと理解していますけども、基本的にはこういった整理の仕方で良いと思います。</p> <p>それから、「3新たな行政改革プランにおいて取り組むべき事項について」につきましては、先ほど事務局の御説明にもありましたけれども、確かに前回のプランは項目が多過ぎるのではないかと感じていましたので、このようにシンプルな形でまとめていただいたのは非常に良いと思います。</p> <p>また(8)番では、市内企業への就職促進ということで、私どもの所属機関と市で提携して奨学ローンの返済助成制度などもつくっていますし、(9)番は、「とましん結婚相談所」の活動を行っておりますので、地元企業として貢献したいと思っています。行政と協力して地元の活性化に努めていきたいと考えております。</p> <p>「市の重要課題については『その他市政に関する提言』のような形で掲載すること」というのは、私が記載しましたけど、行革の枠組みにはまらないかもしれませんが、市政は重要なテーマであると思いますので、このような記述で残していただければと思います。</p> <p>以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、佐藤委員お願いします。</p>
佐藤委員	<p>私は現在、苫小牧市で老人医療と精神医科、高齢者の介護の現場で働いております。その中で、人材不足というのが非常に大きな問題となっています。今回皆さんの意見をまとめていただいておりますけども、私は、意見シートに具体的にこうしてほしいという希望を出させていただきました。</p> <p>一つは、移住・定住促進に向けた取組をもっと実施していただきたいと思っていること。私も市が開催しているUIJターンに関する説明会などに参加させていただいております。また、市のホームページや広報も非常によくできていて分かりやすいと感心しながら拝見させ</p>

	<p>ていただいております。</p> <p>その中で、移住・定住促進に向けた取組をもっと皆さんに知っていただきたい。私自身も東京におりましたし、職場にも東京から苫小牧に戻ってきた職員が多いのですが、苫小牧に戻ってきてよかったという声がいっぱいあります。苫小牧というまちをもっと広報していただきたいと思っております。</p> <p>もう一つは、女性の立場として、これからの女性が活躍できるまちにしていきたいと思っております。同時に、将来を担う子どもたちへの教育にも非常に力を入れていただきたいと思っております。本日の新聞で、夕張高校の「進路広げるネット英会話」という記事がございましたけれども、こういった取組を苫小牧市でも実施していただければと思っております。</p> <p>最後は、苫小牧市は「福祉のまちづくり条例」を制定しており、生涯を送るまちとして、すばらしいと思っております。そのすばらしいまちをさらに良くするためには、民間の企業のサイトとリンクするなどの情報発信の方法も考えていただければと思います。</p> <p>以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、菅原委員お願いします。</p>
菅原委員	<p>新たな行革プランの在り方ということを考えさせていただく上で、前回の審議会で財政部から市の財政状況の説明をしていただきました。毎回この審議会でも議論になっておりますが、行政施策と財政というものをリンクして考えていくべきだと思います。</p> <p>行革の発祥として、まずは財政再建というステージがあり、これを非常に見事にクリアしてきた中で、前回の説明を私なりに解釈させていただくと、これからは財源を活用する時代に入るのではないかと非常に強く感じました。</p> <p>その上で、これからの時代に求められるものは何だろうと考えたときに、やはり公共施設を初めとするインフラの持続性をどう図っていくかということが一つあると思います。</p> <p>それから、この資料にも多く書かれていますけれども、ICT技術の導入や活用といったことに遅れることなく行政運営を行っていかなければならないというのが二つ目。</p> <p>三つ目は、環境変化、この調和や親和というのを考えなければいけない。私が意識する環境変化というのは、個人の生活スタイルや働き方の変化、先ほど佐藤委員が職員の中に東京から戻ってきた方がたく</p>



きたい。この辺を何か工夫することができないかと思います。

財源に関しては、前回の審議会でもお話が出たクラウドファンディングですが、これは多方面において積極的に取り組んでいただきたいと思っております。

意見シートに記載しましたが、市民ホールが100億円近い予算がかかるということで、とても大きな事業になる。これも賛同する方から寄附や出資金を募るといった手法をどんどん取り入れていただきたいと思っております。

官民協働に関しては、これから人口が減少していくことが予測されているわけですから、当然ながら行政の職員人数自体も縮小せざるを得ない時代を迎える可能性が高いと思います。そうなった場合を想定して、市民力、行政力を合致させた形で取り組んでいけるような方向性を考えたらいいかと思います。

透明性と情報発信に関しては、行政における透明性というのは大前提の話ですけれども、情報発信については、「見える化」という言葉が随分浸透してきていますが、「見える化」から「見せる化」に転換していただきたいと思っております。

とまチョップが非常にかわいくて人気がありますよね。活字の羅列では読みづらいといったことも、例えば、とまチョップを活用すれば、子ども達も興味を持てる。興味を持つことによって、夏休みや、冬休みの課題に取り上げるといったこともあるかもしれません。小さいながらも、何となく行政のどこかに関心を持つという、芽を生むことができるのではないかと感じています。

前回の審議会で、現在の行革プランの取り組み項目が多いという話がありました。こちらに関しては、「行政改革プランは5か年計画」で取り組まれています。これらの計画の中には、もしかすると頑張れば5年間もかからずに取り組みが終了できるものがあるのではないかと気がします。そういうことを少し淘汰しますと、この5か年計画の項目は、もう少し整理ができるのではないかと思います。

その他市政に関する事項に関しまして、(3)番、IR誘致のことを記載させていただきました。私もIRに関する説明会に参加させていただきました。参加して、初めて大きな概要を理解することができました。現在、とにかく「IR=カジノ」ということが問題視されているかと思います。カジノ部分の面積割合が全体の3%であったり、その他の大きな概要についても理解されていない方が多いのではないかと思います。

	<p>財政状況が厳しいなどと色々と懸念されていますけれども、もしこの I R 誘致が確定すれば、財政の状態は大きく一変する可能性があるものと思います。それだけ、苫小牧市にとっては大きな影響のある事業だという受けとめ方をすべきだと思うのです。開業が 5、6 年先という予定。賛成なのか反対なのかという議論の前に、これは一体どういうものなのかということ、徹底的に皆さんにお知らせする必要があります。議論を重ね、逐一の情報発信をしていただきたいと思います。そのためには新聞の紙面をお借りする、また、とまチョップを活用し漫画のように分かりやすい形で「見せる」といったような情報発信の方法を工夫していただきたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、藤田委員お願いします。</p>
藤田委員	<p>審議会が始まる前に資料を拝見させていただきまして、大変よくまとめていただいた内容だと思います。</p> <p>新たな行政改革プランの方向性についてですが、この「新たな」を外しても、過去のどの時期においても、こうあるべきという内容にまとめていると思います。ブラッシュアップされてきていると感じます。</p> <p>NEXT STAGE を超えてということになりますけれども、苫小牧市がどのような問題を抱えているのかというところを踏まえ、各論を構成していくということになると思います。過去においては、財政難から発する部分に対しての大きな不安感、歳出削減によって財源措置をしなければいけないような状態に対して、皆さんがルーチンワークの中では改善できない難しいところを、行革の取組としてピックアップして、大きな問題であるからこそ別枠で取り組んできたという背景があると思います。</p> <p>各委員から意見がありましたけれども、財政の健全化という部分について、それなりの成果がもう出ているとなると、これまで行革の目的であったところが一つ薄れていると感じます。これから先もこれまで実施してきたような行革の取組は必要だと思っておりますけれども、こうなってくると苫小牧市として抱えている大きな問題がなければ、部局ごとのルーチンワークの中に入れていただく内容になっていくと思います。</p> <p>我々の生活環境など、このまちを取り巻く外部条件というのは、日々、急速なスピードで変わっていきますから、それに対する将来の</p>

課題に対しての行革の位置づけが大事になると思います。

歳出削減を中心に行ってきたことから、これからは菅原委員がおっしゃっていたように、財源活用の時代になっていく、川島委員からは、投資の優先順位を考えてこのまちの付加価値を高めていくというニュアンスのお話がありました。これらを考えるときに、行革の部分とは別に、市としてこのまちが将来的にどういうまちにしていくのかという、新たな方向性をもう一回考え直していただいて、行革プランをそれに当てはめていくということが必要なのではないかと思います。

当然、こういうまちにしていくという展望があれば、どういった規模の財源が必要で、財源をどういう方法で確保するのか、財源確保のためには投資が必要で、まちの将来の展望があれば、おのずと投資の優先順位は決まってくると思います。展望を決めないことには、恐らく変化に対して後追いで対応する行革になってしまうと思います。

先のことはわかりませんが、5年ペースで内容を見直していくわけですから、もう少し先のことまで見据えて、苫小牧市はこういうまちになっていくのだ、そのためには現状ないものはこれなのだ、ないものを付け加えるためには、これぐらいの規模の財源が必要なのだ、その財源を確保するためにはこういった手法が考えられるのだ。例えばIR誘致の取組もその一つになり得るのだと思いますが、それがあってもなくても、こういうまちにしていくのだということを暫定でも結構ですから方向性が必要だと思います。

その理想像に足りないことがある、まだまだやらなければいけないことがあるから、行政改革が必要なのだという意識がなくなると、行革のための行革になってしまうのではないかと危惧をしています。

行政改革を実施することでマイナスになることは一切ありませんけど、仮に豊富な財源が確保されたときに、それを何に使うのかという先を見据えていただきたいと思っています。

これは行革プランで考える問題ではないと思います。行革プランとは、もっと業務を効率化しなくてはいけない、もっと財源を確保しなければいけないといったものでありますので、行革プランとしては、今回記載している内容で十分だと思いますが、そこに魂を入れるためには苫小牧市としての喫緊の課題の設定というのが絶対に必要だと思います。

そういった意味では、新プランに対する答申としては、これで結構ですけども、これを生かすためには、苫小牧市がこれからどういう方向で行くのかということをしっかり考えてほしいということを伝えて

	<p>いただければ、本当に魂が入ってくるのではないかと考えています。 以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました それでは、山上委員お願いします。</p>
山上委員	<p>今、藤田委員がおっしゃっていたことに尽きるような気がしています。</p> <p>NEXT STAGEのこの5年間というのは、本当に画期的な行政改革の考え方と滑り出しだったと思います。5年間が経過して、一つの評価が出て、そして次の計画が非常に大事だと思うのです。将来ビジョン、グランドデザインと言ったものが、市民の皆さんにわかるような形にするというのが大事だと思います。</p> <p>前回の審議会で部長が、行財政改革として実施している自治体もあるとおっしゃっていました。今まで行政改革、それから財政改革をいろんな部署で専門的な検討をしながらやってきました。しかし、苫小牧市のビジョンを作るときに、色々なセクションがあるものをどういった形で横断的に捉えるかというのは、市として検討しなければならない大きな課題ではないかと思っています。</p> <p>一昨年に手話言語条例が制定されました。障がいの有無に関係なく、コミュニケーションが図れるというのは非常に大切だと思っています。市内には、手話をしながら歌うことを取り入れている幼稚園・保育所もあると聞いています。</p> <p>また、前回の審議会の後に、男女平等参画審議会に参加させていただきました。LGBTQなどの話を一生懸命考えている最中なのですが、世代や性別を超え、人権を尊重し、すべてのひとが笑える苫小牧にするにはどうしたらいいのか。</p> <p>苫小牧は港や空港があり、立地条件が良ことで紙産業や自動車産業など色々な産業が発展してきました。苫小牧市とは何なのだと考えたときに、そういったレガシー系の部分も大事ですが、これからは、苫小牧市は人権を尊重するまちなのだとしたこと大事だと思います。行革の扱いではないかもしれませんが、苫小牧市のグランドデザインを作る際に、こういった意見があったとコメントのような形をつけていただけるとありがたいです。</p> <p>以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。 それでは、滝本副会長お願いします。</p>
滝本副会長	<p>今回まとめていただいた内容は大変充実したものになっており、本</p>

	<p>当に感謝申し上げます。</p> <p>私は、職があって、そして人々が生きていく中で、利益だけを求めるのではなく、安心、そして喜びを持って充実して生活できるような住みたいまちづくり、そういうものを苫小牧には求めていってほしいと思います。市が成長していく中、インフラは改善していかなければならない部分が出てきます。インフラの安全を考えると、おのずと優先順位が決まってくると思います。安全なまちづくりの中で、そこに何を、どう持ってくるかという、苫小牧市の地域の特性を生かした企業誘致なども考えられると思います。そして、そこには人材育成のための、学びがあり、職を得られるようなつながりのあるものと考えていってほしいと思います。</p> <p>今、SDGsのことや、食品ロス削減に関する法律ができるなど、全国的に企業も取組を進めています。小さな子どものうちから、食品ロスのことなどを学ばせるなど、生活していく力をつけてほしいと思います。</p> <p>日本はペットボトルの使用率が世界的にみて非常に高くなっています。ドイツなどではリターナブル瓶を使うことでしてゴミを出さないようにしています。日本が先進国の中で環境意識が低いと思われているのがデータに出ていてとても残念です。</p> <p>これから環境問題への意識も変化していくと思いますが、教育を通じて環境問題に対する考え方、在り方について意識の醸成ができればと思います。</p> <p>以上です。</p>
石森会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>各委員から、お話を伺いまして、本当に核心をついた議論をしているのではないかと思います。</p> <p>私は、今まで行ってきた行革の取組について、しっかりここで評価したほうがいいのではないかと思います。財政危機を乗り越え、安定した財政収支の中において、投資をして新しい時代に向け政策を展開していくチャンスであると思います。先ほどIRの話がありましたけれども、色々な議論はありますが、税収がプラスに働くようなものがあるかもしれない。ひょっとしたら、子ども達の給食費を無料にすることもできるかもしれない。それぐらいのインパクトがあることなので、IRについてよく理解をしてもらえようPRが必要だと思えます。いろんなことを議論しなければ後世に禍根を残すのではないかと改めて感じました。</p>

	<p>そういう意味では、次のステージはこれまでの行政改革の取組を正当評価して、今まで行ってきたツールでブラッシュアップして、人口減少などにより再び厳しい財政状況に陥らないようにするために税収確保するなど、クリエイティブな議論をする一歩が始まるのではないかと思います。今までの取組を評価することで、新たな行財政改革の考え方というものが見えてくるのではないかと思います。</p> <p>しかし、今までの手法を全部切り替えるということは非常にリスクが大きいと感じています。例えば市民ホールに100億円をかけて建設することに対して、本当に市民が納得して事業を開始できるか。水道、下水道の配管は地面に埋まっているため見たことがないと思いますが、設置から既に40年、50年と経過しており更新が控えている。財政のコントロールというのをしっかりチェックしていく必要があるのではないかと思います。違った目で見えて議論をするステージに入っていくのではないかと思います。</p> <p>本日、委員の皆さんから非常に多くの意見が出て議論がしやすくなったのではないかと思いますけど、事務局から御意見ありますでしょうか。</p>
事務局	<p>本当にたくさんの御意見ありがとうございました。皆さんの御意見を拝聴しまして、市の将来像という話が出ましたが、総合計画というものを御存じだと思います。市にはさまざまな計画があるのですけれども、その一番の上位計画がその総合計画でありまして、その中に基本構想などがあります。これは市議会の議決を経て決めているものです。ですから、市の将来的なビジョンという意味では、総合計画がグランドデザイン、今後の市のあるべき姿というのを示していることになります。そういった意味では、新たな行政改革プランというのは、この総合計画の中の目標の実現に向けて、どのように行政を改革していくべきかという位置づけになると思います。一度資料を提示すればよかったのかもしれませんが、総合計画は昨年度に作り直したばかりでございますので、一度中身をご覧いただければと思います。</p> <p>その中には、市の組織をどうするのかなど様々な取組が記載されております。そういった一つ一つの項目を受けて、行政改革プランをどういった中身にするかということも考えていかなければならないと思っておりますので、非常に大きな御意見をいただいたと感じています。今いただいた意見を我々の考えている行政改革プランの範疇に収められないかもしれませんが、皆さんの御意見は本当に正論だと思っております。</p>

	<p>今後、市がどういう姿になっていくのか、我々行政が業務を遂行していくに当たって、いかにそれを効率的に行っていくか。今お話しいただいた財政面についても、目標に向かって取組をするためには確かに投資が必要であり、必ず予算が必要になってきます。その予算がどの程度使えるのか、どこにどう振り分けていくのかというのも、大切な視点になると思います。財政健全化計画と行政改革プランの2本立てのうち、現在は別々の計画となっているため今回は行政改革プランの議論となりますが、私の個人的な意見としては、将来的には一本化していく必要があるのではないかと思います。そういった視野も必要になってくると感じております。</p>
石森会長	<p>行政改革については、「市民サービスの向上」というものを取り入れた時点から変わってきていると思います。</p> <p>そういう意味では、それにもう一つ加えて活力を出すための財源を新たに見つけなければいけない。行革の取組によって貯まった財源が、宝の持ち腐れになってしまうのではないかと、今後どう使っていくか。行革にどう反映させるかどうかは別にしても、しっかり議事録には残しておいてほしいと思います。</p> <p>市民サービスを提供するためには財源がなければできません。今まで蓄えてきた財源があって初めて言えるようになってきたわけですが、それに加えて、新たな財源を確保する努力も必要だと思います。皆さん何か御意見ございますか。</p>
藤田委員	<p>総合計画については、個人の意見シートにも記載させていただきましたけども、正直申し上げて、将来絵図というものが非常に薄いと感じています。だから総合計画の見直しをしてほしいといった内容を書きました。やはり今の課題がそのまま現存しているのであれば、このままでいいのだと思うのですけども。これまでに改善を図ってきたからには、このまちがどうなるべきかということに対して、積極的に投資をしていく可能性も総合計画の中に何か折り込んでいくべきだと思います。2022年まで、あつという間ですから、次の計画で結構だと思いますが、今考えておかなければ次の計画にも反映できないと思います。</p> <p>だから、大きな財源を確保するという部分では、総合計画以外の取組で財源を確保したらどうするのかということを考えておく必要があるのではないかと思います。</p> <p>IRを誘致することが、目的・目標ではなくて、その財源でどういったことができるかという算段が絶対に大切なことだと思います。I</p>

	Rに特化した話ではないですけども、総合計画にはそういった先のことも考えていただけたら本当にいいなと思います。
石森会長	今、苫小牧はいい意味で環境が変わりつつあります。空港の民営化も始まりましたし、北海道では一番活気があるまちなのではないでしょうか。行革の在り方も次のステージへ行く必要があると思います。キャッチフレーズなども工夫が必要だと思います。
事務局	<p>総合計画も、行政改革プランも以前は10年スパンの計画期間でした。しかし、昨今、経済状況など外部環境、内部環境が目まぐるしく変化していく中で、10年スパンという期間は長すぎるのではないかと、5年程度で定めるべきではないかという議論がありました。</p> <p>我々の行政改革も、以前は行政改革大綱というものをつくっておりました。10年先を見越した内容となっていました。目まぐるしく社会情勢が変わる中で、臨機応変に対応するためには5年程度での目標を定めて、その中でも情勢が変われば、更に見直しをしていくということで行政改革プランでは計画期間を5年間とし取り組んできました。現在のNEXT STAGEでも7つの基本方針を定めて取り組んでいるところです。</p> <p>基本的には、我々も社会情勢に敏感に反応し、対応していかなければいけないと常々考えているところです。</p>
石森会長	<p>そのほか、ございますか。</p> <p>今後の段取りはどうなるのでしょうか。</p>
事務局	<p>今回の資料につきましては、皆さんから事前にいただいた多数の御意見をカテゴリーに分けて集約したものとなっております。</p> <p>今後、この資料と、本日いただいた御意見をもとに、事務局として答申の案を作成させていただきます。次の審議会では答申書案を委員の皆さんに見ていただいて、改めて御意見をいただきたいと思っています。</p> <p>その後といたしましては、答申書としてまとめたものを会長から市長に提出していただきます。</p> <p>答申の提出後、今度は事務局としてではなく、市の立場として、いただいた答申をもとに、新たな行政改革プランを作成していく流れとなっております。次回の審議会までに答申書の案を用意したいと考えております。</p> <p>今回の議論にもありましたけれども、行革の範疇を超えるような大きなテーマにつきましては、市政への提言という形で、答申書案に記載させていただきたいと考えております。</p>

石森会長	審議会の日程は決まっているのでしょうか。
事務局	次回の審議会の日程につきましては、9月中旬での開催を予定しております。詳細につきましては、近日中にご案内させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
石森会長	<p>委員の皆様、御意見ございますか。</p> <p>また次回に答申について議論をするということですが、非常によくまとまっていると思えますし、市民にわかりやすいものができるのではないかと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の審議회를終了したいと思います。ありがとうございました。</p>